

[D-PLUS プレゼンツ](#)

はじめての Premiere

～泣かせろ！動画を使った思い出づくり～

基本的な編集は、プロジェクトに追加されているクリップ（取り込んだビデオの素材など）をタイムラインパネルに配置することから始めます。クリップをタイムラインに配置すれば、それが一つの動画になります。その映像を確認しながら、テキストの追加、不要な部分の削除、トランジションやBGMを追加するなどの編集作業を行っていきます。

1.動画編集を始める前に

あらかじめデスクトップに作業用フォルダを作り、編集に使用するデータを入れておきます。今回の講習では練習用の素材を使うので、すでにデスクトップにフォルダを作成してあります。

編集したデータを保存するとき

※使った素材（ビデオやBGMのファイルなど）は一つのフォルダにまとめて保存します。

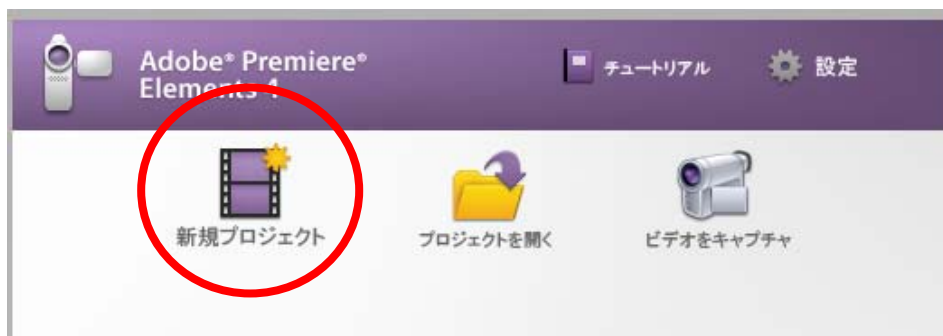
バラバラに保存すると作業が続けられなくなるので注意してください。

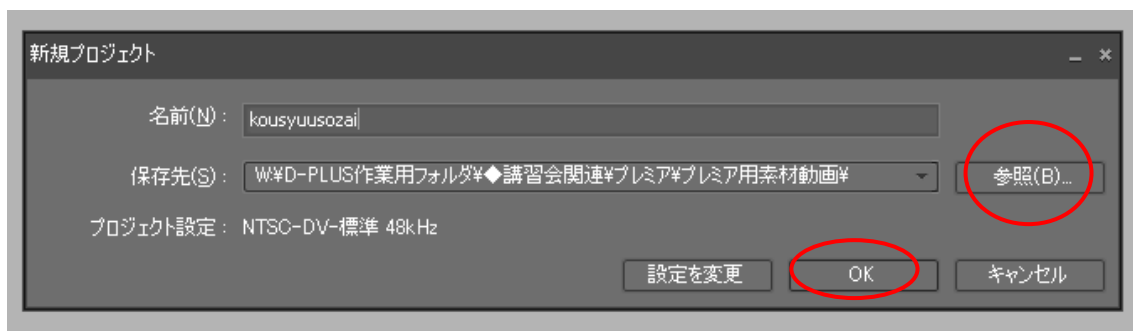
※シャットダウンする前に、お手持ちの記録媒体に作業フォルダを忘れずに保存してください。

2.基本設定

さっそく Adobe premiere Elements を起動します。デスクトップ上のアイコンをダブルクリックしてください。

以下のウィンドウが表示されたら、[新規プロジェクト]を選択します。

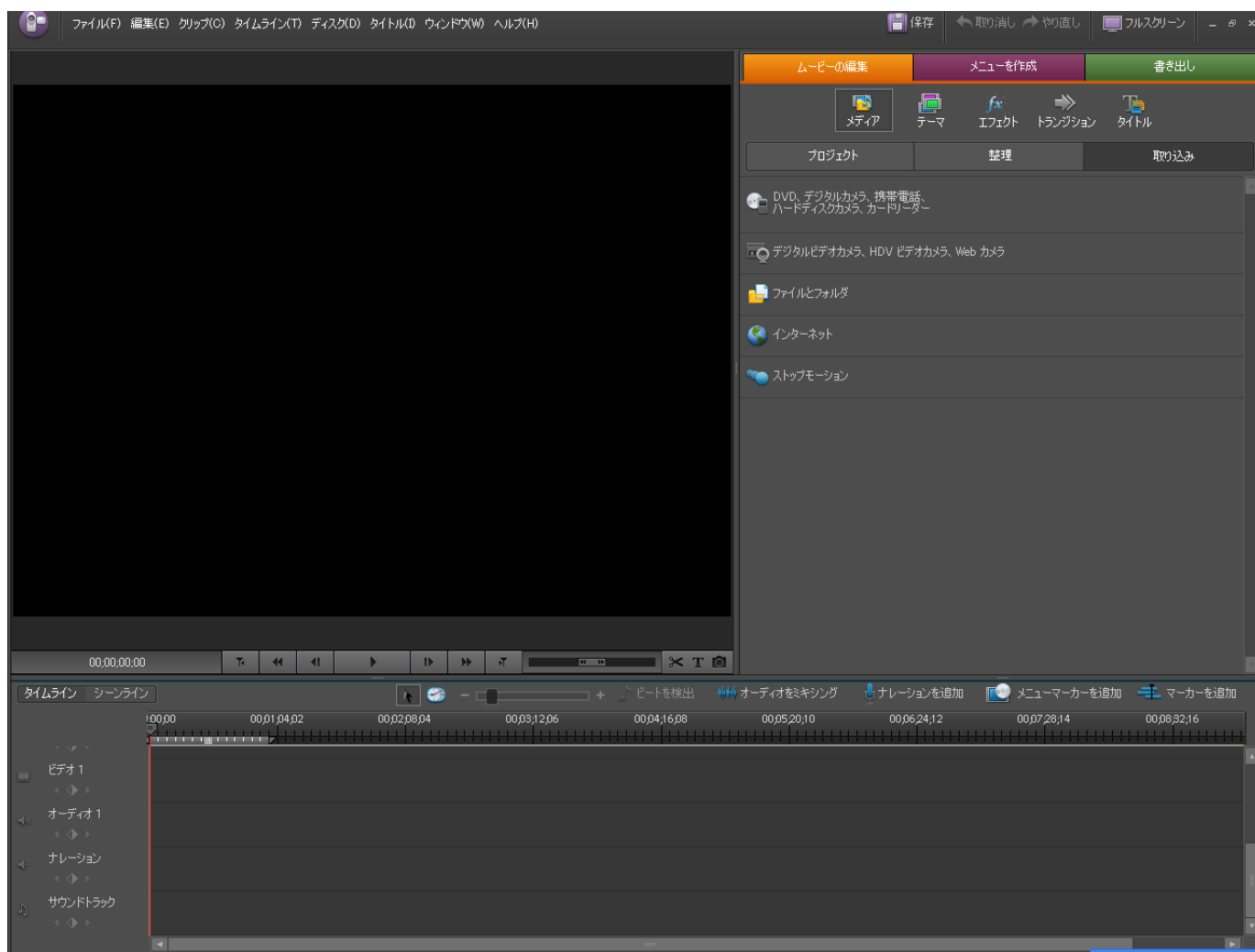




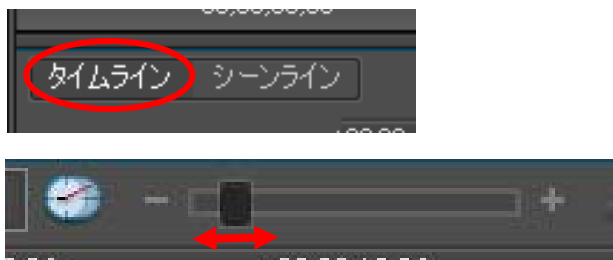
名前を入力し、[参照]をクリックして保存先を指定します。素材が入っているのと同じフォルダにしてください。この時に新しいフォルダを作成することも可能です。

設定できたら[OK]をクリックしてください。

プレミアの初期画面が表示されました。



左の方にある[タイムライン/シーンライン]から、[タイムライン]を選択しておきましょう。



このバーはタイムラインを拡大／縮小するツールです。つまみを左右に動かして、適宜調節しながら編集を進めていきます。

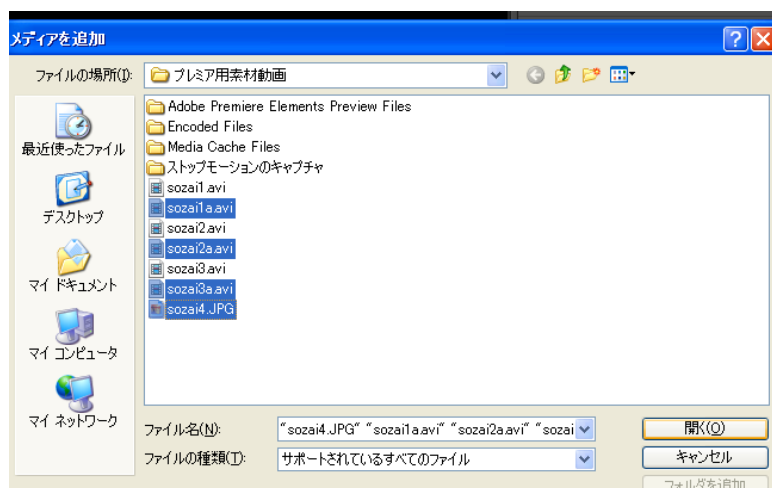
3.素材動画を取り込む

それでは、編集に使う素材をプレミアに取り込みます。



表示されている画面から、
[取り込み]→[ファイルとフォルダ]で
作業に使用するファイルを全て選択し
て[開く]をクリックします。

選択したいファイル名を Ctrl キーを押し
ながらクリックすると複数選択するこ
とができます。



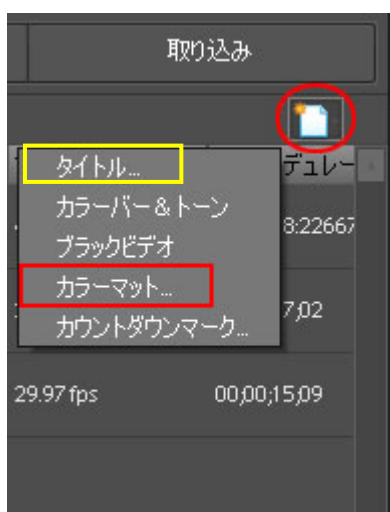
[プロジェクト]を選択して、このように表示されれば OK です。



追加したファイルがクリップ(取り込んだビデオの素材など)として表示されます。
これらをタイムラインに並べていくことで、一つの動画になります。

4.タイトル画面を作成する

方法はいくつかありますが、今回は[カラーマット]と[タイトル]を使用します。



背景に[カラーマット]を使いたいので、
←このマークをクリックします。

一覧から[カラーマット]を選択。
カラーピッカーが表示されるので、
好きな色を選択し、[OK]をクリック。

タイムラインにカラーマットが表示されます。
同様に、テキストを入力します。

左の図と同じ画面から、今度は[タイトル]を選択します。

ツール説明

今回は主に赤字のツールを使います。

[選択ツール]で文字や図形を選択し、
[カラープロパティ]でその文字や図形の
色を変更することができます。

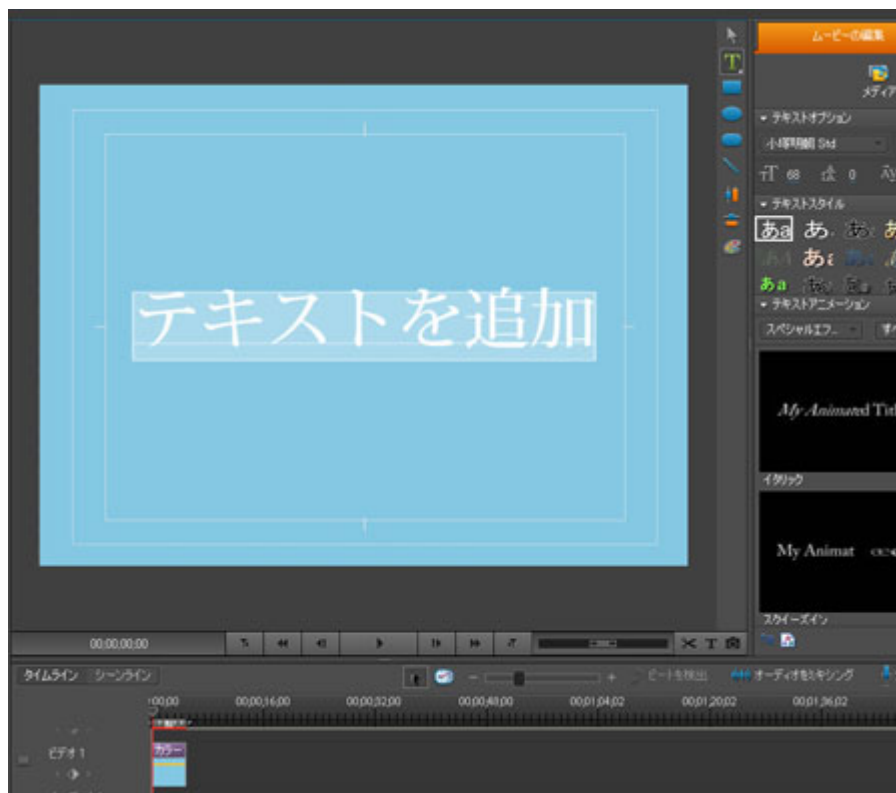
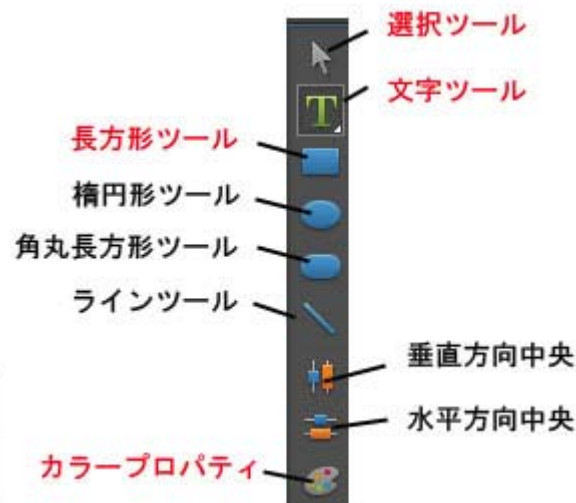
下図のツールで、文字の大きさなどの編集が
できます。

フォントを変える



文字の大きさを変える

字間を調節する

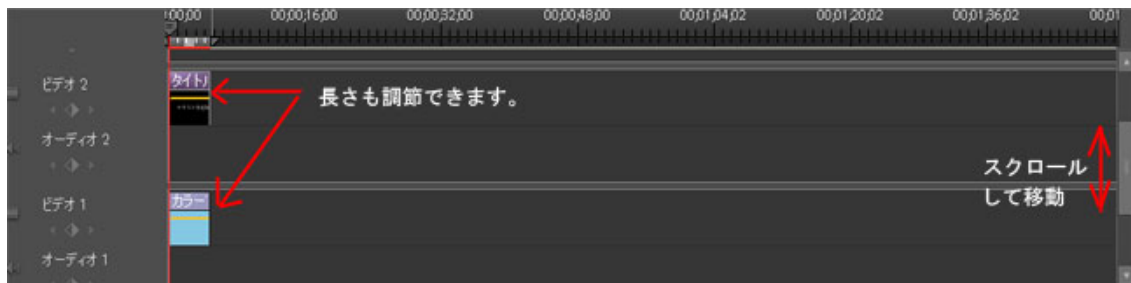


これがタイトルの編集画面です。


表示媒体によってテキストが途切れる場合がありますので、

入力したテキストは、最終的に一番内側の白い枠内に収めるようにしてください。

[カラーマット]と[タイトル]を作成すると、一見タイトルはタイムラインに表示されませんが、タイムライン右のスクロールバーを上スクロールすると表示されているのがわかります。



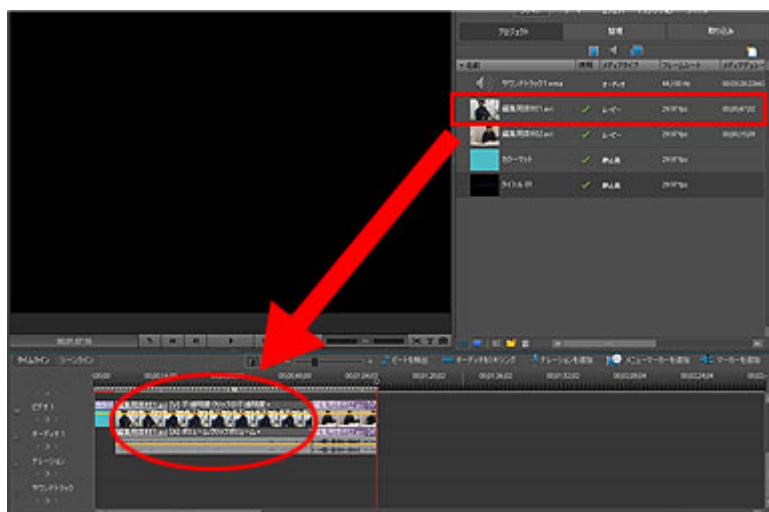
長さを調節することもできますが、タイトルとカラーマットは分けられているので、それぞれ同じ長さに合わせて調節してください。また、カラーマットを使わずにタイトル機能のみを使って文字を入力することも可能です。

編集し終わったら、忘れずに  **完了** をクリックしてください。

編集完了した後にまた編集したいときは、タイムライン上で編集したいファイルをダブルクリックすると編集画面が表示されます。

5.素材をつなげる

タイムライン上で、素材をつなげて一つのビデオにします。



[プロジェクト]の一覧から、タイトル画面の次につなげたいシーンをドラッグ & ドロップします。同様に、他のシーンもならべていきます(順番を変えたりすることも可能です)。動画ファイル(.avi など)のほかにも、写真ファイル(.jpg)やイラストファイル(.png)もプレミアで編集することができます。今回は写真ファイルが一番最後に入れてエンディング代わりにしましょう。

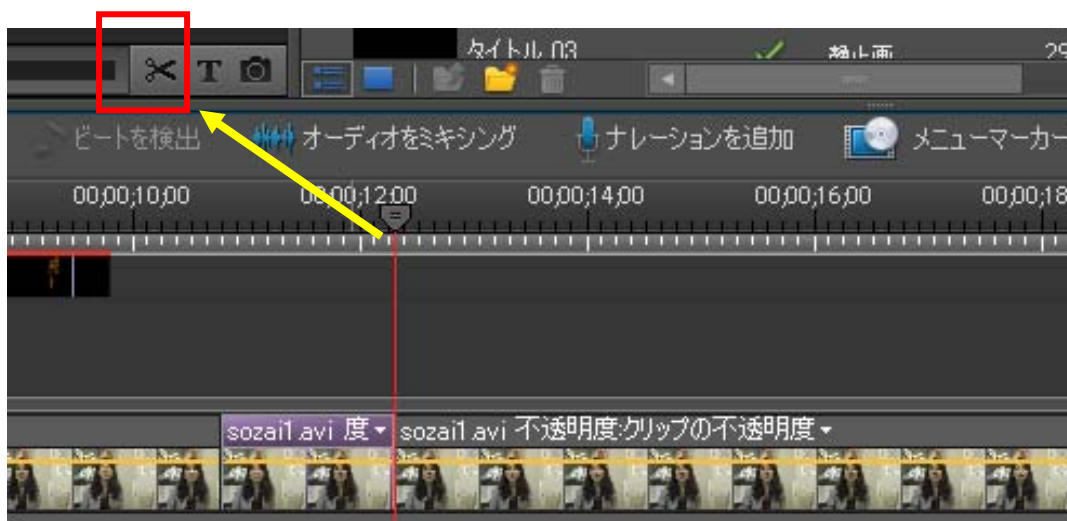
タイムラインに動画と同じように配置することができます。

再生ボタン  をクリックすると、ビデオが再生されます。確認してみましょう。

6. 不要なシーンの削除

カットしたいシーンの始まり部分に赤い縦線を移動させ、ハサミのマークをクリックすると動画が分割されます。


同じ作業をカットしたいシーンの終わり部分でも行い、不要な部分を Delete キーで削除します。



7. トランジションの追加

シーンの切り替えを自然に、きれいに見せるためにトランジションという効果を使います。先ほどカットした部分を再生してみると、シーンの繋がりが不自然になっているのがわかります。

ここで、トランジションの出番です。

 トランジション このマークをクリックすると、使用できるトランジションの一覧が表示されます。それでは、先ほどカットした部分にトランジションを適用してみましょう。

下の方にスクロールしていくと表示される[ディゾルブ]の[クロスディゾルブ]を使います。



これを、シーンの切れ目にドラッグ & ドロップすると効果がつきます。



他のトランジションを使ってさまざまな効果をつけることもできますが、使いすぎると見づらくなってしまいますので、2~3種類程度に留めておくときれいな編集になります。

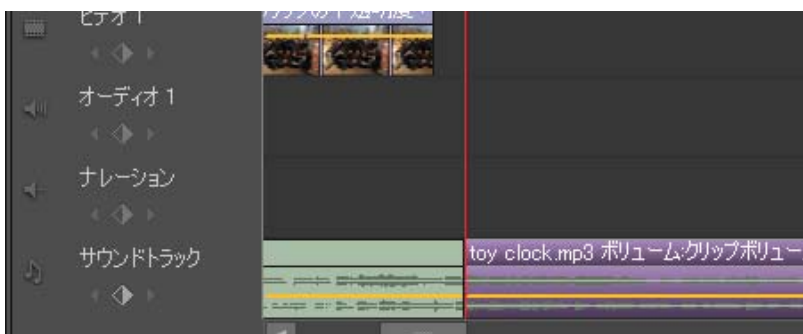
8. BGM の追加

ビデオをタイムラインに並べた要領で、BGM もドラッグ & ドロップで追加します。

BGM には mp3 ファイルか wav ファイルを使います。

タイムライン上の[サウンドトラック]の横に追加してください。

長すぎる BGM は、ビデオの長さに合わせてカットします。方法は、4と同様です。



9. 音量調節

再生してみると、BGM が大きすぎて人物の声が聴こえにくいといったことがあります。

この場合は、BGM の音量を調節します。

サウンドトラックの黄色い線をドラッグすると、音量を調節することができます。



今回はこの機能を利用して、音楽をだんだん小さく(フェードアウト)してみましょう。

サウンドトラックを選択した紫色の状態で、左の方にあるダイヤ型のマークをクリックします。

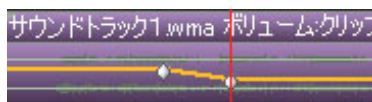


カーソルを乗せると「キーフレームの追加または削除」と書かれているものです。

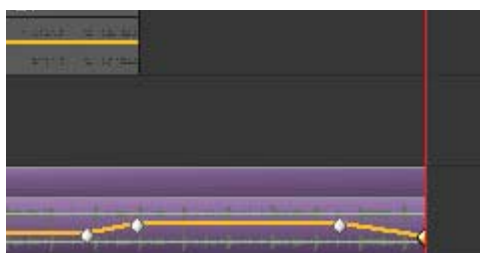
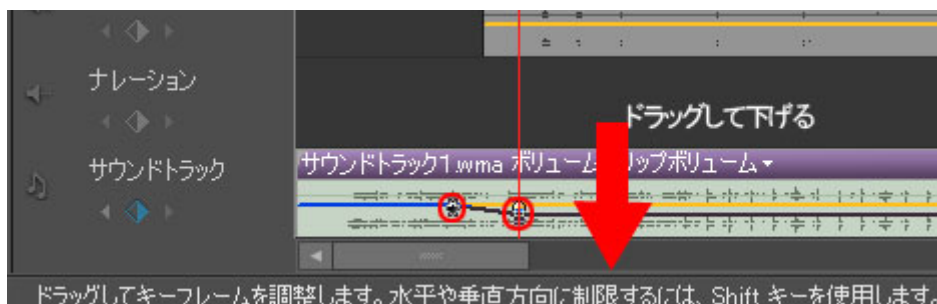
このように、白い点のようなものがサウンドトラック上に表示されれば OK です。

これをフェードアウトの始点と終点の 2 か所に入

れます。赤い縦線のバーをドラッグして始点と終点を探し、キーフレームを入力しましょう。



終点となるキーフレームを選択し、ドラッグして下に下げると、黄色い線が斜めになります。これで音楽をだんだん小さくすることができます。



キーフレームを入れる個所を増やして工夫すると、「ビデオの再生が終わったら BGM の音量を上げる、最後はフェードアウトして終了」など、思い通りに仕上げることができます。

10. 書き出し

ここまでくれば、動画は完成したようなものです。

しかし、最後に**書き出し**という大事な作業をしなければ、ビデオは完成したことになりません。

ファイル(F) から、[書き出し]→[ムービー]を選択します。

保存場所を確認し、ファイル形式が.avi になっていることを確かめてから[保存]をクリックします。

レンダリングが行われるので、しばらくお待ちください。

レンダリングが終了したら、動画の完成です。

わからないことがあったらお気軽に D-PLUS に訊いてください。

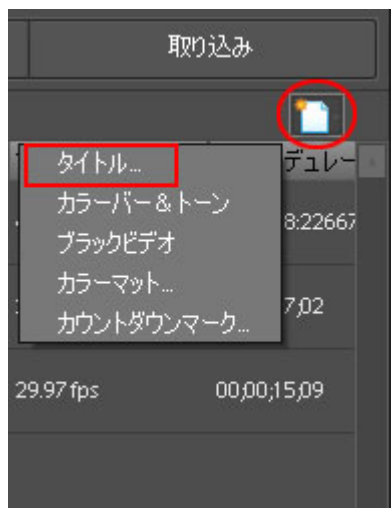
また、C ラボ 1 にて Premiere Elements の本も貸し出しております。是非ご利用ください。

+α テロップの作成

ビデオの上に、再生中に表示されるテロップを作成することもできます。

基本的には、タイトル画面や終わりのテロップを作った方法を応用したのになります。

今回は、縦書きのテロップを作る方法を紹介します。



2と同様に、まず新規タイトルを作成します。



文字ツールのマークをクリックして長押しするとオプションが表示され、

縦書きを選択することができます。マークの矢印が下向きになったら縦書きの状態です。

2でタイトル画面を作成した時のように、文字の大きさや色を自由に調整しましょう。